福山の夜の都市社会・経済・空間に関する研究：スナックを中心に
2024 年度重点研究成果発表会資料
発表者：小島見和

■　研究グループ

所属	職名	名前	専門分野等	研究代表者
都市経営	教授	牧田　幸文	高齢者福祉・多文化共生	
都市経営	教授	玉井　由樹	企業家活動・中小企業経営	
都市経営	教授	清原　昭子	地域経済・フードシステム論	
都市経営	准教授	塚本　僚平	人文地理・地域産業	
都市経営	准教授	根本　修平	建築計画意匠・まちづくり	
都市経営	講師	宮前　良平	社会心理学・災害復興	
都市経営	助教	小島　見和	都市史・建築史	○

■　2024 年度研究の概要

① 建築学、都市史学、地理学、経済学、経営学、社会学諸分野における「スナック」「歓楽街」「盛り場」などをキーワードとする先行研究レビュー
② 1962 年～2024 年の福山市霞町明治町昭和町のゼンリン住宅地図の比較分析
③ 福山市のスナック、バーおもに 2 軒の現地調査、経営者・常連客へのインタビュー調査
④ 比較対象として、鳥取県米子市、愛媛県西予市、東京都武蔵野市、北海道札幌市薄野、京都府京都市祇園、京都府宇治市、愛知県名古屋市錦のスナック事例の現地調査

■　研究目的と 2024 年度研究で明らかになったこと

- 社会的側面①：地域社会における準公共的な場、居場所としてのスナックの実態を分析することで、より多様な居場所を可能にする条件を明らかにする（高齢者の居場所など）
  →男性の社交関係が在職中から転職・リタイア後まで継続する場になっている、職種や業界によって行きつけの店があることが調査でわかった
- 社会的側面②：スナックで働く人々の生活を分析することで、地域の多様な労働と生活のあり方について考察する（ジェンダーやエスニシティの問題も）
  →経営者・従業員（多くが女性）の仕事や生活に関する「語り」、常連客との様々な会話に、地域・都市の様々なできごとに対する見解が示されている
- 経済的側面①：小規模経営者（個人事業主）のスナック経営のケーススタディを行うことで、これまで研究されてこなかったこの業種の経営的特質を明らかにする
  →飲食店として開業資金が少額、拡大より定常を目指すことなどから、細々と続く小規模経営の特質分析になる、若者や女性の起業という観点から研究を進める価値がある
- 経済的側面②：関連業種と合わせたスナック業の地域経済への位置づけ、ナイトタイムエコノミーの資源としてのポテンシャルを考える
- 経済的側面③：製造業等の派生需要の受け皿としての飲酒をともなう飲食業についての立地、構造分析を行う
  →1970 年代以降の状況の聞き取りから、企業の接待需要があった／あることがわかった（料亭などの飲食店→クラブ・ラウンジ・キャバレー→スナック、という娯楽生態系）
- 空間的側面①：スナックの立地特性を、主要産業の変遷を考慮し近現代都市形成履歴と結びつけて分析することにより、悉皆的な福山の都市空間構造を解明する
  →1962～2024 年の福山市霞町・明治町・昭和町のゼンリン住宅地図の比較分析を行い、1970 年代に「スナック」軒数が増加して明治町～昭和町に歓楽的集積が生じ、1980～90 年代にビル化したものが多いことがわかった
- 空間的側面②：これまで学術的検討の対象になりにくかったスナックビルとその使われ方や、店内空間との関係について類型化を行う
  →直線／L 字カウンター、両端にカラオケ用モニターの平面タイプ